

第13回 顎口腔機能セミナー 概要

【主催】 日本顎口腔機能学会

【主管】 校長 服部 佳功（日本顎口腔機能学会・会長，東北大学）

セミナー企画委員長 松香 芳三

（顎口腔機能セミナー企画担当理事，徳島大学）

【会期】 令和6年

9月20日（金）～22日（日）（2泊3日）

開始日時：9月20日（金）13：00

終了日時：9月22日（日）12：00

【テーマ】 顎機能クエスト そして伝説へ・・・

セミナーホームページ（<http://jssf.umin.ne.jp/>）

【会場】 ホテル千秋閣

〒770 0847 徳島県徳島市幸町3丁目55番地

TEL：088（622）9121

URL：<https://www.sensyukaku.jp/>

【参加費】 ¥30,000（現地）

【受講者数】 35名（先着順）

【運営事務局】 第13回 顎口腔機能セミナー運営事務局（徳島大学歯学部内）

担当 鈴木 善貴

TEL：088-633-7350 FAX：088-633-7391

Mail：yosuzuki@tokushima-u.ac.jp

9月20日(金)

- 13:00 ~ 13:10 開校式、全体説明
- 13:15 ~ 14:35 座学① 顎口腔機能研究をレベルアップさせよう!!
富田 洋介 先生 (高崎健康福祉大学)
大川 純平 先生 (新潟大学)
松香 芳三 先生 (徳島大学)
依田 信裕 先生 (東北大学)
- 14:35 ~ 14:45 休憩
- 14:45 ~ 15:45 座学② だけじゃない顎口腔機能研究
奥野 健太郎 先生 (大阪歯科大学)
田中 佑人 先生 (大阪歯科大学)
中川 量晴 先生 (東京医科歯科大学)
- 15:45 ~ 16:10 実習内容要旨全体説明 (各WS 講師5分×5グループ)
- 16:10 ~ 19:00 移動、実習
- 19:00 ~ 21:00 夕食・懇親会

9月21日(土)

- 6:30 ~ 8:30 早朝テニス大会
- 9:05 ~ 9:50 特別講演 *vita dilettantis*(日々・デイレタントレス)
服部 佳功 先生 (東北大学)
- 9:50 ~ 10:00 休憩
- 11:00 ~ 12:30 レクリエーション
- 11:00 ~ 12:30 実習
- 12:30 ~ 13:30 昼食
- 13:30 ~ 14:15 座学③ 留学体験記
真柄 仁 先生 (新潟大学)
田中 恭恵 先生 (東北大学)
新開 瑞希 先生 (徳島大学)
- 14:15 ~ 18:00 実習
- 18:00 ~ 19:00 夕食
- 19:00 ~ 実習 (発表準備など)

9月22日(日)

- 9:30 ~ 11:45 成果発表 (15分×5グループ)
- 11:45 ~ 12:00 修了式 (現地解散)

ワークショップ

① 顎口腔の形態と機能の可視化技術を用いた顎機能評価

講師：重本 修伺 先生（鶴見大学）、伊藤 崇弘 先生（鶴見大学）

概要：Digital dentistry の普及にともない、「顎運動」の重要性が再認識されつつある。本ワークショップでは顎運動測定器を用いて実際の顎運動測定を実施し、歯列形態情報と顎運動情報を統合した可視化技術を用いて顎機能を客観的に評価するとともに新たな観察方法および評価方法について検討する。

② 生成 AI ができる!? 顎口腔機能解析プログラムを作ってみよう

講師：萬田 陽介 先生（岡山大学）、大川 純平 先生（新潟大学）、兒玉 直紀 先生（岡山大学）、村嶋 綾香 先生（岡山大学）

概要：生成 AI の目まぐるしい発展により、かつてはハードルが高かったプログラミングが身近なものになりました。本ワークショップでは生成 AI を使用して顎口腔機能解析ソフトを作成し、表面筋電図とモーションキャプチャを用いて咀嚼・嚥下運動を測定・解析する予定です。

③ 口腔悪習癖が咀嚼筋の性状へ及ぼす影響

講師：小見山 道 先生（日本大学松戸歯学部）、飯田 崇 先生（日本大学松戸歯学部）、依田 信裕 先生（東北大学）、小川 徹 先生（東北大学）、互野 亮 先生（東北大学）

概要：睡眠時ブラキシズムや TCH などの口腔悪習癖は咀嚼筋痛障害を引き起こす因子とされています。今回、成人被験者において口腔悪習癖の有無および咀嚼筋痛障害の診断によるカテゴリー分類を行い、咀嚼筋の圧痛閾値、咬筋皮膚上の機械的触覚閾値、ピンプリック疼痛閾値および筋硬度などによる筋性状の検索を予定しております。筋硬度、圧痛といった普段論文で目にするパラメーターの測定方法を学修する一助となれば幸いです。

④ ビデオ嚥下造影検査の画像解析手法を学んで、小型超音波装置での嚥下動態をみてみよう

講師：吉川 峰加 先生（広島大学），長崎 信一 先生（広島大学）

概要：嚥下障害の精密検査としてゴールドスタンダードなのがビデオ嚥下造影検査（VF）である。このVFの画像を解析することで、口腔通過時間や咽頭通過時間などを客観的な数値を用いて嚥下動態を表現可能である。今回のワークショップでは、このVF画像解析の手法を皆で学ぶとともに、正常嚥下や嚥下障害の画像の見え方を捉え、口やのどの動きから嚥下のイメージをつかむことを目的とする。それに加えて、現在、様々な臨床現場で普及しつつあるポータブルエコー装置を用いて、口腔・咽頭内の画像の見え方を学習する。

⑤ 嚥下運動生体記録の面白さを知ろう

講師：真柄 仁 先生（新潟大学），鈴木 拓 先生（新潟大学，あさひ歯科）

概要：摂食嚥下障害患者にとって、液体摂取時の誤嚥がしばしば問題となります。それを防ぐために摂取方法を調整する臨床対応が行われています。今回、液体摂取方法の条件の違いが口唇、舌の筋活動を含む嚥下運動にどのような影響を及ぼすかを検討します。条件については、本WSの参加先生方と事前に相談して設定したいと思います。必要であれば嚥下内視鏡での同時記録も予定します。